

コチャバネセセリ

Thoressa varia

セセリチョウ科

魚類

底生動物

爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外來種) 草花

哺乳類

(水辺類) 鳥

ワシタカ
原樹林

名前の由来

小さい茶色の翅のセセリチョウの意味。セセリは「せせる（つつく、刺す、あさるなどの意）」に由来する。
漢字名：小茶羽挿



コチャバネセセリ

チョウ標本：吉原利之氏作成・所蔵

特定種

該当なし。

形態的特徴

翅の表がこげ茶色、裏が黄土色で班紋のある中型のセセリチョウ。班紋はオスメスほとんど同じであるが、オスは前翅中室下方に斜走する性標があり、メスにはこれは

なく、オスに比べて翅形が幅広い。



コチャバネセセリ。表（左がオス、右がメス）



カラフトタカネキマダラセセリ。表
(左がオス、右がメス)



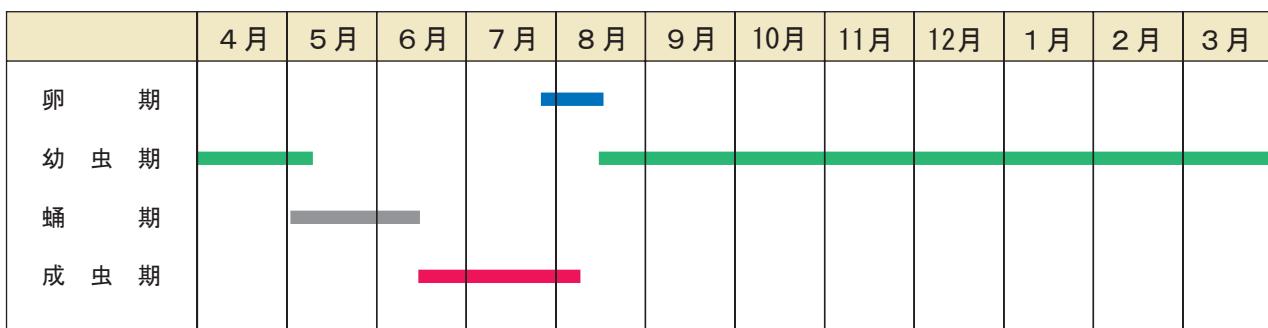
チャマダラセセリ。表（左がオス、右がメス）



コチャバネセセリ。ウラ（左がオス、右がメス）

チョウ標本：吉原利之氏作成・所蔵

生活サイクル



生育環境・分布

平地から山地にかけての林縁、林道沿いなど。
分布：国外分布は、千島列島のウルップ島、樺太のみ。
国内分布は、九州以北の日本全土。北海道内分布は、全域。

十勝地方では、平野部から山岳部まで普通に見られる。
数はとても多く、多くの場所で最優占種となる。

魚類

底生動物

爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(鳥類) 水辺

(鳥類) ワシ・タカ

繁殖生態・寿命

年2回の発生。平地から低山帯では6月、山地では7月に出現。まれに年2回発生。越冬態は幼虫。
母蝶はササ類の葉裏に1個づつ卵を産む。ササ群落の周辺部の株を食草として利用することが多い。
幼虫はササの葉の先端部を袋状につづり合わせた巣をつくり、葉の中脈を残して摂食する。幼虫は周辺の振動などにも敏感で、摂食中でも人の気配を感じるとあわてて巣の内部に潜り込んでしまう。
越冬は終齢で行われることが多く、秋になると、幼虫は

巣を二つ折りにし、きれいな橢円形のしっかりした巣を作り、内部は多量に吐糸されている。巣を切り落として地面に落ちたあと、幼虫は頭部を出して巣を引きずって移動する。そのため切り落とされて残った葉の真下からはこの越冬巣は発見されない。

移動した幼虫はさらに巣をしっかりと補強したあと越冬にはいり、翌春巣の中で蛹化し、羽化した成虫は巣の縁を押し開けて出てくる。寿命：不明。

他生物との関わり

* 幼虫はチシマザサ、クマイザサなどの各種ササ類を食草とする。
* 成虫の吸蜜植物として、ノリウツギ、ヒヨドリバナ、ヒメジョオンなどのほか多くの種が確認されている。
* 幼虫、蛹から寄生蝶が出ることがある。
* クマザサに造巣していた終齢幼虫がササグモにとらえられたという報告、幼虫がウマオイムシに襲われた報告がある。



コチャバネセセリの吸蜜植物であるノリウツギ

幼虫の食性（食草）

チシマザサ、クマイザサなどの各種ササ類。

興味深い話

■ 十勝地方で最も普通で個体数の多い種でないかと思われる。道路に黄土色のかたまりがあると思ったら、獸の糞にびっしりと群がっているコチャバネセセリであったなんていうこともあるほどである。
■ 幼虫は巣を二つ折りにして、きれいな橢円形のしっかりした巣を造る。自ら巣を切り落として地面に落ちたあ

と、幼虫は頭部を出して巣を引きずって移動する。移動した幼虫はさらに巣をしっかりと補強したあと越冬にはいる。

■ 十勝地方のアイヌ語では、チョウ類一般を「マレウレウ」という。

配慮事項

ササ類などの食草の自生地が必要。

参考文献

- 「原色蝶類検索図鑑」猪又敏男 北隆館 1990
「日本のチョウ」海野和男・青山潤三 小学館 1981
「原色昆虫大図鑑 I (蝶蛾編)」北隆館 1978
「北海道昆虫ガイド」北海道昆虫同好会 北海道教育社 1984
「学研生物図鑑 昆虫 I チョウ」監修 白水隆 学習研究社 1983
「十勝の蝶」大和与三追悼集 十勝蝶の会 1993
「北海道の蝶」永盛拓行・永森俊行・坪内純・辻規男 北海道新聞社 1986

- 「原色日本蝶類生態図鑑 (IV)」福田晴夫・浜栄一 他 保育社 1984
「北見の蝶」木村辰正 北見市教育委員会 1994
「知里真志保著作集 別巻I 分類アイヌ語辞典 植物編・動物編」知里真志保、平凡社 1976